

あとがき

福生町教育委員会教育長 橋本兵五郎

福生町誌編集委員会は町当局より委嘱を受けた小・中学校勤務の数名の委員によって、昭和三十一年二月二十日に発足した。その後、更に委員の数を加えてようやくすべり出す運びとなった。以来四年の年月を経てしまった。

委員の構成が全員現職の教員であったことから時間的に非常に制約され、そのため無駄な時間を費したことは事実である。一方完成させるために払った委員の努力もまた事実である。委員会、常任委員会も合せると、実に数十回に及んでいる。時には専門家を招いて指導を受けたり、夏の炎天下や、夕立ちに降られての実地調査、古文書をあさってほりだらけになったり、古老を囲んで夜半に至るまでの座談会など、或いはまた、調査したものを中間報告とした「福生誌覚書」も十二号まで発行した。思えば全く委員一同の尊い協力があったからこそ、この書はまとまったのである。

最後に、調査に、古文書整理に、執筆に当り御指導をいただいた、横浜市大教授・鮎沢信太郎博士、東京都文化財調査主任・稲村坦元先生、明大大学院生・煎本増夫氏ならびに、資料の提供をいただいた町民各位に対し、或いは出版に際し御努力いただいた小川書店社長小川正則氏に心から感謝の意を表す次第である。

なお、委員会発足当時より共に活躍いただいた元福生中学校長・岡野栄一先生は校長勇退と同時に完成を前にして委員を辞任されたがその間の労に対し、心から御礼を申上げる次第である。

また、この仕事に役場から関係していただいた方々は左記の諸氏である。

元町長・森田幸造、前町長・秋山誠一、元教育長・大野忠一、元産業課長・高水求、同森田猛、教育委員会関係・町田信二、浅見祐康、斎藤多市、田村忠雄、以上合せてここにその労を謝す。

昭和三十五年十月一日